

中央区のプロフィール～中央区ってどんなところ？

札幌市

位置

石狩平野の南西部に位置し、市街地が発展してきた豊平川扇状地を中心に、東は石狩川から野幌原始林にかけての低地帯、西は手稲山系、南は支笏洞爺国立公園に連なる一大山地、北は日本海に接する石狩砂丘地に囲まれています。札幌市役所本庁舎の位置は、東経 141°21'18"、北緯 43°03'46"。これは、ロシアのウラジオストク、中国の長春、フランスのマルセイユ、イタリアのローマとほぼ同じ緯度に当たります。

広さ

大正11(1922)年8月1日の市制施行以来、9回にわたって市域を拡大し、現在1,121.26km²の面積を有しています。

気象

夏季は爽やかで、冬季は積雪寒冷が特徴である日本海型気候。鮮明な四季の移り変わりが見られます。

中央区



中央区シンボルマーク
(昭和50年4月制定)

緑色の曲線は緑に囲まれた理想ある街と区民の和を示し、だいたい色の十字形は基盤の目状の街並みと四方に発展した札幌市の起点、さらに若い街の活力を表現しています。白色は清潔な街を表現しています。

位置

札幌市の中心部に位置し、北区と東区とはJR函館本線で、白石区と豊平区とは豊平川で、南区と西区とは南西部山地の稜線で接しています。

広さ

面積は46.42km²で、その形は東西に長く、東西15.3km、南北9.8kmに及んでいます。

特徴

都心部の基盤の目状に整然と区画された街路には、官庁や企業の近代的なビルが立ち並び、区内を一周する日本最北の路面電車(市電)は、区のシンボリック的存在として親しまれています。

また、国の天然記念物である円山原始林をはじめ豊かな自然に恵まれており、都市と自然が調和する住みよい環境をつくり出しています。

歩み

先住民族であるアイヌ民族が暮らしてきた北海道の土地は、明治時代に入ると国策として急速に開発が進められることとなります。明治2(1869)年に設置された北海道開拓使の本拠として選ばれた場所が、現在の札幌市中央区です。

開拓使は明治4(1871)年に都市建設に着手。渡島通(現在の南1条通)と大友堀(現在の創成川)を基点に、1町(約109m)四方に区切り、東西南北に走る幅11間(約20m)の道路が設けられました。また、街の中心には東西に幅58間(約105m)の火防線を設け、北側を官地、南側を民地としました。

以降、周辺の山鼻村などを吸収合併して市街地は拡大を続け、大正11(1922)年の市制施行と昭和47(1972)年の区制開始を経て、急速な発展を遂げた首都・札幌の中心であり続けてきました。

かつて街の中心に設けられた火防線は、大通公園へと生まれ変わり、市民の憩いの場となっているだけでなく、さっぽろ雪まつりなど四季折々のイベント会場としても親しまれています。また、その周辺では、北海道新幹線の札幌延伸や都心部の再開発を通じて、魅力あふれるまちづくりが進められています。

中央区マスコットキャラクター「中ウオークン」



「中ウオークン」は、令和4(2022)年に区制50周年を記念し、公募により誕生。中央区の象徴である市電を親しみやすくキャラクター化しました。パンタグラフは、中央区の「中」を表したぜんまいねじに置き換え、区民とともに一步一步元気に前進する姿を表現しています。

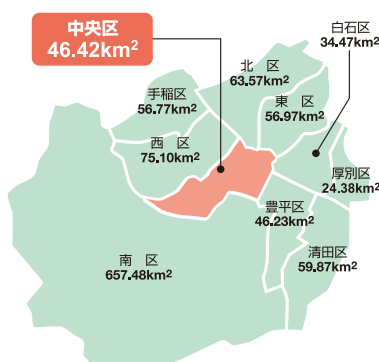
各区の人口と世帯数、面積

●各区の人口と世帯数

	人口(人)	世帯数(世帯)
全市	1,967,361	1,012,625
中央区	255,455	116,374
北区	287,192	144,439
東区	263,869	135,789
白石区	212,178	114,157
厚別区	121,405	58,931
豊平区	228,912	126,489
清田区	107,956	46,024
南区	132,561	63,338
西区	217,916	109,124
手稲区	139,917	65,536

(令和7年9月1日現在)国勢調査ベース

●各区の面積



中央区の人口と世帯数の推移

